
恋愛倶楽部

莓大福

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

恋愛倶楽部

【Nコード】

N4135K

【作者名】

莓大福

【あらすじ】

35歳の草食系男子は「恋」をする

(前書き)

頑張れ！草食系男子！！

恋愛倶楽部

時代は現代どこかの地方で・・・

35歳独身の草食系男子丸山は、ネットの出会い系サイト「恋愛倶楽部」で知りあった20代後半の女性とデートの約束をしていた。

丸山は35歳に至るまで女性とデートをした事がなかった。出会いがなかったといえれば言い訳だが女性に対して極端に奥手な性格であった。

丸山は待ち合わせ場所に向かった。

〇〇公園の噴水の前。待ち合わせ時間はお昼12時時間よりも10分前に早く着いた。すると一人の女性が丸山に声をかけてきた。

「すみません。丸山さんですか？」

丸山はちよつと緊張した様子で

「はい丸山です、初めまして。今日はよろしく
願います。」

女性はニコリと微笑んで丸山を見つめた。

「優しそうな方ですね。イメージどつりの感じ

です。」

丸山は女性の言葉に少し上機嫌になった。肩の力が少し抜けて楽になっていく。

「何か食べにいきましようか？」

女性が声をかける。丸山が答えた。

「そうですね。お腹ぺこぺこですよ。何が食べたいですか？」

女性は少し考えたような表情で答えた。

「そうですね？近くに美味しいパスタのお店があるんですけど丸山さんがよければそちらでどうでしょうか？安くて美味しいんですよ。」

公園から歩いて5分位のところにその店はあった。

こじんまりしていて、いかにも女性が好きそうな洒落なレンガ造りの店だった。

店内は多少混雑していたが若干のテーブルが空いていたのですぐに店に入る事が出来た。

「ここのカルボナーラすごく美味しいんですよ。是非食べてみてくださいよ。」

女性は明るい笑顔で丸山に話しかける

(なんかいい子だな・・・話もしやすくて気さく

な感じで。」

丸山は思った。今までこうして女性と二人きりで食事すらしした事などなかった。今丸山は至福のひとつきを過ごしていた。

しばらくして注文したカルボナーラが運ばれてきた。二人は一口食べるなりお互い目を合わせて

「美味しい！」二人は同時に声を出した。

それは本当に美味しいものだった。濃厚なクリームにパスタがしつかりからまっていて、その上に半熟卵がのっている。

「いつもここで食事しているんですか？」

丸山は女性に聞いた。

「週末の休みの日によく友達と来るんですよ。丸山さんにも気にいってもらえて良かった。」

女性は答えた

「こんな美味しいパスタは今まで食べた事ないですよ」丸山は答えた

女性も嬉しそうに肯いた。まるでふたりは初対面とは思えないほど周りの人々から見たら仲の良いカップルに見えていた。

「もしこの後予定とかなければ映画でもどう

ですか？」丸山は女性に声をかけた。

「ええ。喜んで」

この後も楽しいデートは一日続いた・・・

そして二人は映画を見終えて再び出会った公園に戻りベンチに腰掛けていた。

「丸山さん今日はとても楽しい一日でした。」

丸山さんならこの先十分に女性とお付き合い出来ると思いますよ。とても素敵な人じゃないですか。」

少し悲しげな表情を浮かべ女性は言った。

丸山は言った。

「もうお会いできないんですか？」

女性は軽く肯いた。

「社の方針で同じ人物とは2度逢うことは出来ませんです。我々は恋愛の対象としてお付き合いするのではなく奥手な男性に恋愛の手ほどきをするのが仕事ですから・・・」

女性は続けて言った。

「丸山さん。自分にもっと自信を持ってください。きつと素敵な女性とお付き合い出来ると思います。」

丸山は残念そうな顔をした。だが一方で女性の

言葉に勇気づけられていたのも事実であった。

「恋愛倶楽部」は草食系男子の為に作られた恋愛支援団体であった。もちろんデートクラブのような如何わしいものではなく奥手な男子の為に設けられた真面目なものだ。

丸山は女性と別れ家路についた。

それから2年後・・・

教会で式を挙げる丸山の姿があった。
相手の女性は・・・

「恋愛倶楽部」のあの女性だった。
人の気持ちとは、どこまでも不可解なもの。

丸山は女性に本気で恋をした。

女性もまた丸山に本気で恋をしてしまった。

人は人とそう簡単に割り切って付き合いを
するのは難しい。

「気持ち」はなかなか感情でコントロール
出来るものではなかった。

ある意味、恋愛の手ほどきを受けたのは女性の
ほうだったかも知れない。

同時刻〇〇公園の噴水の前

「すみません。田中さんですか？」

男に声をかける別の女性の姿があった・・・

(後書き)

いつも読んでくれてありがとう

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4135k/>

恋愛倶楽部

2010年12月18日17時38分発行